



つなぐ「奉仕の心」これからも

2024年向陽高等学校創立100周年



学校法人向陽学園

歴史編集室発行

TEL0957(52)3210

令和2年度「長崎県高総体」中止！！

長崎県高体連は、新型コロナウイルス感染症対策で「生徒の健康、命を守る」ため、令和2年度高総体(駅伝を除く)の中止を決定しました。(5月14日発表)

昭和41年度「高総体総合開会式」向陽高校全校応援(大村市陸上競技場)

<今こそ示せ我等がホープ>

学業に多くの影響を与え、高校生最大のスポーツの祭典「インターハイ」等各種行事も中止を余儀なくされています。予断を許さない大変な状況ですが、この時こそいまを冷静に見つめ大切にして、未来へ向けて気持ちをきりかえて欲しいと思います。そこから今何をしなければいけないか見えてくるはず。建学の精神に基づき、「技」を磨き「心」を成長させ「夢」を実現させるために学んでいる「向陽生」にエールを送ります。



確固として立つ校風

敗戦後日本が冬眠の暗さのような長いトンネル生活であった時、まあなんと明るい学園だろう、なんと奥ゆかしい学園だろう。生徒諸姉の明朗なこと、落ち着きのあること、本当にこの人たちこそこの逆流にも砕けなかった人々だ。自ら考え、

自ら立ち、自ら歩まねばならない、新日本学徒の運命が方向が会得し尽くされているかのようだ。頼もしくも力強さを覚えた。伝統の上に咲く香り高き校風に育まれた向陽学園の生徒諸姉は、明るい社会を築くにふさわしい人間像であるまいか。 昭和30年向陽新聞「学園随想」より抜粋

いま高校では

【7月の主な行事予定】

オープンスクール(中止)

31日:全校集会

BI科①②③スクーリング

ET科③カワ実習

HO科③保育園実習

HU科③介護実習

②介護技術コンテスト

CH科③接客マナー講習会

職場体験

PA科③テーブルマナー講習会

KA科③臨地実習

こようようちえん

「明るく なかよく 元気よく」教育方針

1. 園児の持つ興味や欲求を大切にしながら、園における生活経験を通して総合的な指導をする。
2. 発達段階に応じ、適した生活環境を与える。
3. 家庭教育と連携をはかり、教育効果をあげる。

【看護専攻科】たしかな学びで心豊かな看護の道を

看護専攻科2年間では、豊かな人間性を養うために教養科目と看護の専門科目を学びます。

長崎リハビリテーション学院

“挑戦と変化”で次代の人材を育てる。

チーム医療を現場さながらに学べます。

<シリーズ>2024年「向陽高等学校創立100周年」へ向けて



羽佐古(藤崎) 力枝さん(昭和32年被服科第8回卒)

私は、67年前に姉達に通っている向陽高校に入学しました。すぐにソフトボール部に入り、毎日勉強、部活に明け暮れてました。高校生活での一番の思い出は、やはりソフトボールで国体に出場し、天覧試合を行った時でした。生まれて初めて天皇陛下のお姿を拝調し、その時どのような試合をしたかあまり覚えていない程緊張していました。高校3年間は寮生活をしており、時には寮生達と寮母さんの部屋に集まって、ご馳走やお菓子を食べてながら、夜遅くまで語り合うこともあり。今でも部活の仲間とは時々会っています。部活の練習はつらい時もありましたが、向陽高校で過ごした3年間は、人生の中でとてもかけがえのない大切な時間でした。そして、まもなく100周年を迎える学園の長い歴史の中で、3年間を過ごすことができた事をとても誇らしく思います。在校生の皆さん、これからも「奉仕の心」を忘れずに、残りの学校生活を存分に楽しんでください。

<ソフトボール部:昭和30、31年高総体優勝・全国大会出場、昭和31年国体出場>



向陽高校「高総体」栄光の軌跡

この記事は、昭和30年7月向陽新聞第2号に掲載された記事です。写真は、高総体でソフトボール部が昭和28年以来2度目の優勝を果たした時の烏山武校長先生と部員の写真です。



長崎県高等学校体育連盟主催の第7回体育大会が7月16、17、18日の3日間佐世保市に県下48校の若人3,800余名を集め行われた。

大会は先ず16日午前10時15分、佐世保競輪場で開会式が行われ、向陽高校からはソフトボール、卓球、テニス、バレーボールの4チームの選手40名が参加。



おそろべし応援団の威力 4対2で優勝す

佐世保北高のブラスバンドまで持ち出での派手な応援に不安にかられたが、試合直前百余名の応援がかけつけ、選手一同勇気百倍優勝を誓う折もおり、校長先生が病を押して試合場に姿を見せられ、選手、応援団共に感激して意気はまさに天をつくばかりの勢となった。

それに加えて聖和高校のソフトボール部選手、西海高校ソフト部員その他一般市民多数の心からなる応援をうしろだてに、試合は佐世保北高の先攻で始められた。

1回表早くも1点を先取され幾分動揺したかのように見えたが後続を許さなかった。～中略～4回裏向陽は2点をかせぎ応援団から期せずしてどっと拍手がわき起こった。佐世保北高は5回表1点を返して同点にこぎつけたが、その裏向陽チームは止めの2点を加え、4対2で遂に、栄冠は向陽チームの上に輝いた。

昭和30年7月向陽新聞第2号より抜粋



「バレーボール部」「テニス部」
「卓球部」昭和30年度アルバムより



「ソフトボール部」全国大会出場
昭和30年西宮球場

KOYOファイト!

第1応援歌 「我等がホープ」 作詞：小森貴美子 作曲：石隅 京子 (昭和30年)

- 1 橘香る向陽の 伝統輝く学びの庭に 真珠の汗を流しつつ
鍛え上げたる この腕 今こそ示せ 我等がホープ
- 2 青空高く聳え立つ 平和の塔を仰ぎつつ はてなき希望炎ともえて
磨き上げたる この技を 今こそ示せ 我等がホープ

第2応援歌 「勝利は高し」 作詞：烏山 武 作曲：石隅 京子 (昭和30年)

- 1 橘香る学舎に 集う乙女の意気高く 鍛えあげたるこの腕 示せ向陽・・・向陽・・・向陽
- 2 三城が丘に聳え立つ 平和の塔のかの如く 勝利は高し我が選手 ふるえ向陽・・・向陽・・・向陽
- 3 伝統輝く我が選手 若き血潮は火ともえて 向かうところは無人境 ふるえ向陽・・・向陽・・・向陽

昭和41年度「高総体総合開会式」向陽高校入場行進 (大村市陸上競技場)



本校初めての応援歌誕生

ソフト部は全日本選手権、全九州選手権、県選手権と大活躍して万丈の気をはいているが、これと共に新進のバレー部、テニス部も精進に精進を重ね、国体出場の伝統をになう卓球部は優勝の栄光を勝ちえんとばかり日夜努力を続けている。文芸部では、この機会に運動部のために応援歌を作る事を計画し、歌詞を募集し

応募作品の中から高二の小森貴美子さんの歌詞を採用し、石隅京子先生に作曲を依頼し、ここに本校初めての応援歌が誕生した。これに続いて校長先生の作詞による応援歌「勝利は高し」も出来て、「我等がホープ」と共に、さる9月10日全九州ソフトボール選手権では、大橋球場の空に公開第一声を響かせた。 昭和30年10月向陽新聞第3号より
※小森貴美子さんは現在たちはな同窓会役員です。